

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人知立福祉会		
事業所名	グループホーム ほほえみの里若林(桜)		
所在地	豊田市若林東町上外根12番1		
自己評価作成日	令和1年10月30日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、家で過ごしている様な生活が送れる様に、スタッフはゆったりとその方のペースを大切にしながらケアに努めている。地域交流も徐々に増えてきており、地域との交流(認知症カフェ、地域のお祭りの参加など)に力を入れ入居者様が地域の中の一員と感じられる様な活動に力を入れている。スタッフも明るく元気にケアに望んでいる為、入居者様も明るい気持ちで生活が出来るのではないかとと思う。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&Ji_gvosvoCd=2393000357-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和1年11月27日		

事業所にはデイサービスセンターが併設され、開設4年を経過し地域に馴染み買い物や散歩を通して地域との関わりも広がりが出ている。「心と心が通い合い、ともに笑顔で地域の中に暮らす」の理念と、年度ごとにグループホームの目標やユニット目標を職員で考え、それらを振り返りながら、日々の生活の中で、入居者が自分の有する能力に応じて自分らしく過ごせるように、一人ひとりに添ったケアをするように努めている。また、「ほほえみの里若林のスタッフルール」を行動規範として、自分の行動を振り返り見直ししながらケアに努めている。地域との交流も広まる中、八幡宮の大人神輿や子供神輿が立ち寄り、担ぎ手と会話をしたり、写真を撮ったりしてお祭りの威勢や懐かしみなどを感じながら賑わいを楽しんでいる。それぞれのユニットやデイサービスセンターへの自由な行き来の中で、イベントやカラオケ、談笑などをして楽しく交流をしている。手作りの食事やおやつなど職員と一緒に調理したり、季節の花見や外出に出かけたりして楽しみ作りを増やしつづめる。調度品や絵画などが程よく配置された落ち着いた大人の生活環境の中で、自分らしくいられる場所に集い、安らぎあるのびのびとした生活を楽しんだり、柔らかな日差しが注ぐ和室で寝そべったり、ソファに腰かけ新聞を読んだり、職員と一緒に会話をしたりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員、家族の見える場所に基本理念を掲げ共有し実践に繋げている。	法人理念を玄関に掲示し、理念を基本に毎年事業所目標と各ユニットの目標を職員で話し合っ作成している。目標は、日々の介護記録用紙に記載し常に確認するようにしている。必要に応じてユニット会議などで振り返り、日々のケアに繋げるように努めている。入職時には、本部や事業所で研修を受け、職員は年1回の面談などで確認し、それぞれの行動の指針として実践できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やお祭りに参加をし交流を図ることが出来た。地域の中の他事業所のお祭りにも参加をさせて頂いた。日常的にもっと交流が行える機械が増えたと良い。	町内会に加入していないが、自治会長から運営推進会議等で直接情報を聞いたり、コミュニティ便り等で情報を得ている。地域の夏祭りや盆踊りに参加している。八幡宮の大人神輿と子供神輿が立ち寄り、担ぎ手と会話をしたり、写真を撮ったりして関係性を深めている。近所の商店や美容院を利用したり、挨拶や会話を通して日常的な交流も図っている。また、月1回の認知症カフェへの参加も定着し、職員も認知症サポーター養成講座の講師を務め地域に貢献している。中学生、高校生、大学生、折り紙や物作りなどのボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し地域の中で認知症に関する啓発や支援を行う事が出来ていると思う。認知症サポーター養成講座も行なった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、事業所の取り組みや課題等を報告し、参加者よりの意見やアドバイスを得ている。施設からは管理者のみの参加であり、介護現場の職員はあまり関わっていない。	区長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て年6回実施している。事業所の運営や活動状況、事故報告の他に施設の課題と取り組みなどを議題として取り上げ、参加者と活発な意見交換が行われている。参加者からの意見や提案等はその場で話し合ったり、記録して会議などで協議しサービスの向上に活かしている。議事録は、ファイルして自由に閲覧できるようにしている。家族には面会時に口頭で内容を伝えたり、家族会などで報告しているが、家族の参加が課題としている。	入居者家族に運営推進会議を通して情報を得る機会があることを知って頂くために、便りなどに会議内容を書き載せたり、開催日の希望や興味あるテーマを基に話し合う機会を作ったり、家族が参加しやすい行事を計画したり、年間の計画や内容などを事業所から積極的に発信するなどの工夫をして、家族参加へ繋げていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市より、介護相談員が月に一度訪問に来ている。相談員との連携をとり、入居者様の本音や思っている事を共有できている。また、社共のボランティア登録や、市の主催の勉強会等には積極的に参加をしている。実情の取り組み等の報告はあまり出ていない。	行政担当窓口には介護保険更新手続きや申請の代行業務、サービスの取り組みなどを伝え、情報交換をしながら良好な協力関係を築いている。職員は市主催の研修会に積極的に参加し、サービス向上へ繋げるように努めている。地域包括支援センターを中心として民生委員やボランティアの協力を得て認知症カフェを毎月開催し好評を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない認識と実践が出来ている。しかし、玄関の施錠をしており、施設の周辺の環境を考慮しての安全確保の為に認識している。定期的に身体拘束の勉強会や見直しを行い拘束0への認識を深めていると思う。	年2回身体拘束廃止について勉強会や見直しをする時間を作っている。職員同士で接し方などに問題がないかチェックし合い、拘束に対する意識を高め、その場で注意し合える環境に心がけている。特にスピーチロックに配慮し、束縛感のない環境造りに努めている。職員の見守りの中で、一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、開放的で自由な暮らしができるよう支援をしている。入居者は、運動リハビリを兼ねて事業所内を自由に歩き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての学ぶ機会は少ないが、職員間での声掛けの仕方や入居者様との接し方に疑問に思ふ点などが生じた場合はユニット会議で見直したりして見過ごしが起きないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度等の法律や制度について学ぶ機会が少ない。実際に成年後見制度を活用している方がいるが詳細は詳しく分からないのが現状。個々での知識として持っている職員は居るかもしれないが活用して支援しているかは分からない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族への説明と質疑応答に時間をかけて不安や疑問が残らない様に念入りに行なっている。その後の質問や疑問が生じた場合はその都度質問して頂く様にし、入居間もない期間は特に気にかけて家族と接する様に管理者、スタッフで意識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に一度家族会を開催している、その際にはご家族様のアンケートを実施し要望や意見をお聞きしている。その内容を踏まえ、アンケート結果を公表している。苦情受付を設置している。アンケート結果や受け付け内容は介護職員にも共有して改善に繋げていくが、ご家族様の本音を聞き出すにはなかなか難しいと感じる事もある。	入居者の意見、要望は日常の会話や表情から読み取り、申し送りノートに記載して会議で検討し職員間で共有して運営に反映している。家族からは面会時やケアプランの説明などで、生活や事業所に対する要望を聞き、ケアや接遇などの改善に役立っている。また、年1回アンケートを実施し、結果は、職員で共有し施設のサービスの向上に役立っている。ほほえみの里新聞を発行して家族に安心を届けている。	家族からの意見や要望や職員の対応についてのアンケートを実施し、アンケート結果について、施設のサービスの向上に役立っているのみでなく、家族へ結果の報告をし、情報を開示して行くことを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、スタッフ面談等で運営に関する事を話したり、意見を聞いている。運営側と現場側の意見を聞き管理者を通してスタッフや上司に意見や実情を報告している。	日常の業務の中や引継ぎ時また、ユニット会議や全体会議で職員の提案や要望を聞き、運営に反映させている。パート職員も含め人事考課を基に年1回の個人面談を実施し要望や意見、悩みなどを聞く機会を設け、処遇の改善に努めている。また、職員は一年間を振り返り自己評価を行い自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の自己評価、個人面談を主とし人事考課を通じてスタッフのやりがいや、スキルモチベーションアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験値や、向上して欲しい内容の研修等に積極的に参加をさせ向上に努めている。また、本人より受けたい研修等があれば積極的に受講をさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、研修を通じて意見交換などのコミュニケーションを図っている。それ以外には特に交流や訪問などは行っていない。他のグループホームの様子などを知る機会等が増えるとういと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居すぐの入居者様の状況や心境の把握と不安等の改善に努められる様に変に声掛けや傾聴を中心に初期段階は特に気を配って接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や、ケアプラン作成時には、ご家族様の要望や意見、思い等をお聞きし施設での生活での不安や要望を解消出来る様に、安心できる様に入居の導入時には行なっている。スタッフからもご家族様に積極的に声を掛けて現状を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと協力をしながら今現在の課題を見つけ出し介護職員のみならず、家族や医療、その他のサービスの必要性を考え可能な限り実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が介護の対象者という認識を省き、スタッフも入居者様と共にその時間を過ごすという意識を持つ様にしている。やってあげているという認識を持たない様に心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族様の関係性を施設生活を送りながら維持が出来る様に、様々な面で協力をお願いし関係性を保っている。日頃より日常の様子を話したり、自宅生活の様子を伺うなどのコミュニケーションを図っていると思う。中には、あまり面会等に来られない方などは現状を知ってもらう機会が少ないと感じる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで築いてきた馴染みの方、場所、趣味などを継続出来る様に外部の方やなじみの方の面会や関わりを大切に考えている。居室も今までの馴染みの家具や品々を持ち込んで頂きこれまでの生活の延長線となる様にご家族様にも協力をして頂いている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握し、今までしてきたことを取り入れた生活が再現できる支援を目指している。友人や家族の訪問で談笑したり、家族の協力を得て墓参りや正月に自宅に帰って過ごしたりして懐かしみなどの関係性が継続できるよう支援している。また、近所のスーパーや喫茶店、美容室などは、新しい馴染みとなっている。日常の家事や花壇の手入れ、編み物、新聞記事のコラムなどをノートなどに書き写すなど今まで培った生活習慣や経験を楽しみながら日常に活かす支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わりを持って生活が送れる事、また入居者同士の相性等を考慮してスタッフが仲介に入ったり声掛けをしてお互いが気持ちよく過ごせる様に配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様と(可能なら本人様)とその都度今後どうしていきべきか、どうしていきたいかを相談や面談を行いGHでの生活が困難と判断された場合もその方にあった生活環境の助言等を行い退居後のサポートを行なう様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様に合った生活の過ごし方やペースをスタッフは把握しなるべく希望に応じた過ごし方を送って頂ける様に関わっている。食事形態なども本人様の希望に沿って工夫や調整を行なっている。	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、相談員の記録も参考にしながらケース検討会で話し合い、職員間で共有してケアに繋げている。入浴時や部屋でゆっくり話せる時間などは一人ひとりの思いや希望を聞く貴重な時間になっている。思いの表出の少ない方には、家族から聞き取ったり、気長に待ちながら、うなづきや表情の変化を見落とすことなく丁寧に対応するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各居室には、これまでの馴染みの家具や物を置き、その方の身体状況に合わせて配置等を工夫している。これまで利用してきた介護サービス等の状況を把握し、GHでのサービスの提供に役立たせている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方1人1人の体調や気分等に合わせて一日の生活の中でも工夫をしている。余暇時間の過ごし方や家事等の作業の時間、休憩時間など本人の状況に合わせて行なって頂いている。また有する能力を生かしてやれる事はご自分で行える様に配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議、ケース検討を通じてケアマネージャーを中心にその方の生活をより良くする為のケアプランの作成、現在の課題やテーマについて話し合いの場を設けている。家族様への説明や同意を得てご家族様へ理解して頂いている。現状とケアプランが一致していない時などは瞬時にプラン変更や見直しが必要と思う。	入居者や家族の思いを担当者が聞き生活記録を基に、医師や看護師の意見を交えて介護計画を作成している。3か月ごとに生活全般についてモニタリングし目標を立て、6か月ごとに見直しを行っている。生活記録に介護計画も一緒にファイルして各ユニットに置き、どの職員も記録内容を共有し、入居者の状態を把握して同じケアができるように個々の目標を毎日チェックしている。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議の他、毎日の申し送り、業務ノートの活用、個々の生活記録を活用してスタッフの気づきや変化などの情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態、状況に合わせてその都度スタッフ間、ご家族様と協議、相談を行いその時に必要な支援を現サービスにこだわらずに多様なサービスや支援を取り入れて行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに合わせた地域資源の活用とまでは難しいが、施設として地域との連携協力を得て地域の皆様の力をお借りして豊かな暮らしに結びつけられていると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を決める際にご家族様、本人様にお伺いし施設の往診医を中心に医師、看護師と連絡連携を図り、適切な医療を受け健康に過ごす事出来る様に支援を行っている。往診医以外の通院はご家族様にご協力を頂いて受診をして頂いている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科は月2回提携医による往診がある。専門医の受診は家族の協力を得ているが、緊急時や家族が付き添えない場合などは職員で対応している。看護師が常駐し、薬の管理や健康管理に努め職員間で情報を共有してケアに繋げている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間体制で医師や看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への報告、相談を常に行い、体調の変化や体調不良などの際は看護師、医師と連携して適切な対応を受ける事が出来ていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、施設と情報共有と現状の把握に努め入院後の経過や状態の確認と実際に訪問するなどを行い入院後も退院、回復に向けての支援を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアについては施設では基本行わないのを前提に入居前の説明を行っている。入居利用中に重度化した際の重度化に関する指針マニュアルは入居契約時に説明をさせて頂いている。施設で出来る事は可能な限り行っていきたいが、医療や看護が常に必要な状況の場合は施設対応が困難な為、退居を検討して頂く場合もある。看取りについての研修や勉強会に看護師を中心に参加をして学ぶ機会を増やしてきているが、な	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合、その都度入居者や家族に希望を確認し医師や看護師と話し合っ計画の見直しを行っている。入居者にとって最善の援助ができるように努め、医療行為が発生しない限り看取りを含め、希望に添うような支援をしている。また、看護師を中心に看取りの研修を行っている。必要に応じて会議の中で看取りやメンタルケアなどについても話し合う機会を持ち事業所全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や、急変時の対応の研修や勉強会に参加をして実践出来る様に準備をしているが、実際にその様な場面になると慌ててしまい上手く出来るかが心配である。実践力にはまだまだ課題が残ると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行なう避難訓練を通じて職員が消防や災害が起きた時の行動と対応を確認している。避難場所への経路や避難手順、屋外への避難訓練を行いいざと言う時に備えている。地域の中で避難場所として活用して頂く事も可能としている。	年2回消防署の協力を得て火災や地震、台風被害など様々な災害で昼間帯や夜間帯を想定した避難訓練を実施している。避難誘導や避難経路の確認や初期消火活動などの訓練を行っている。訓練時の問題点や災害時の心構えなど職員で話し合って改善に努めている。備蓄品は水や食料の他、物資も含め3日分が用意され定期的に点検している。地域の高齢者の一時避難場所としての協力体制も整えている。今年度、消防によるAEDの講習会を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けの内容や口調に敬意を持って接する様に心掛けている。居室やトイレなどでは、その方の自尊心を損ねない様な声掛けや対応をする様に心掛けている。ユニット内でのスタッフ間の連絡等にもプライバシーの配慮を徹底していかなくてはと思う。	個々の生活スタイルを守るため入居者の呼び名を決め統一している。本人の誇りやプライバシーを損ねないように声掛けのタイミングや声のトーンなどに配慮した対応を周知している。入居者の個性や人格、相性などを考慮して、それぞれの立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に、どうしたいか、何がしたいか等の希望を聞くようにしている。認知症などで判断が難しい方などは簡単な選択肢を分かり易く選んで頂くなど工夫をしていると思う。場合によってはスタッフが決めてしまう様な時もあるので気を付けたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方が過ごしたい様な生活を送れる様に職員のペースを出し過ぎない様に気をつけている。時々こちらのペースに合わせて頂いている時があるのでなるべく本人様のペースと希望に沿う事を増やせれたらよいと思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等をご自分で行える様、また服などを選んで頂くなど自己にて整容、身だしなみが整えられる様になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事作りや盛り付けを行っている。本人様に合った食事形態や食事量、味付けをする事で食事を楽しみの一つとして考えて頂ける様に工夫をしている。食事の時間もそれぞれに合わせて時間で召し上がって頂ける様にしている。	食材は業者から届けられ、献立表をもとに季節感のある食事や今まで慣れ親しんできた家庭料理、手づくりおやつなどを提供している。入居者の保有能力に合わせて調理や盛り付け、片付けなどその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。週1回のホットケーキ、五平餅、蒸しパンなどのおやつ作りや、月1回の寿司屋、とんかつ、うどんなどの外食なども楽しみのひとつとなっている。職員も一緒に食卓を囲み会話をしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を個々に合わせ、水分量も含め記録として残している。特に水分量は形態を変えるなどして少しでも多く飲水が出来る様に工夫と声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合った方法で歯磨きや口腔清拭を行っている。義歯の消毒や手入れもサポートに入り行なって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、なるべくトイレで排泄が行える様に見守りと声掛け誘導を行っている。特に失敗や失禁がある方に対してはプライバシーに配慮して自尊心を傷つけない様に支援出来ていると思う。また、夜間はポータブルトイレを利用するなど状況に合わせて排泄の用具等を調節している。	個々の排泄チェック表や日常の様子などで職員は排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも、睡眠を妨げることなく尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にして、丁寧な見守りの支援を行っている。必要に応じて夜間のみポータブルを利用し安心できる環境に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、また適度に運動は活動を促している。排便のコントロールも看護師、医師と連携し服薬での調整を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望を先にお伺いし、なるべく入りたい時に入浴が出来る様に順番や曜日などを固定せず入浴を進めている。また、同性介助のご希望者には同性のスタッフが入浴介助に入る様にスタッフ間で協力していると思う。週に2回以上の入浴を前提にしている為、時には希望されない時に入浴をして頂く時もある。	入浴は週2回～3回を目安に入居者の希望を聞き9時から夕食まで入浴時間とし、一人ひとりの希望に添った時間で入浴している。お湯は毎回入れ替え清潔に入浴できる環境を整えている。入浴剤を利用したり季節を感じるゆず湯で入浴を楽しめるようにしている。また、入り口に暖簾をかけて入浴を促すような環境作りをしたり、入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。入浴後は、乳液などを利用し肌の乾燥に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の調子や状況で居室で休まれたり、休息する時間を作っている。また、夜間も就寝時間はそれぞれ違い個々の就寝、起床時間に合わせて声掛け等を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服について、看護師と協力し服薬支援をしている。この内服を全て理解して把握する事は出来ておらず少しずつ内服の効果なども覚えていきたいと思う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中でやりたい事ややれる事を一緒に行なって頂き、張り合いや役割を持てる様に支援していく。中にはやりたくない時などがあるがその際は無理を言わずに時間や内容を変えるなどしている。楽しみもそれぞれ違い、その方の楽しみをもっと引き出せたら良いと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で外に出かける事は難しい。(職員の人数や付き添うスタッフが居ない為。)少しでも外出が出来る様に外出の計画を立て外へ行く企画をしている。また、ご家族様には外出支援のご協力を頂き、土日にはご家族様と外出する入居者様も多い。スタッフは、少しでも屋外に出る事が出来る様に意識をして、外周の散歩や日光浴、買い物の同行などを行なっている。	天気の良い日には散歩に出掛けるようにしている。また、敷地内の散歩や椅子を並べてベランダでお茶会など、なるべく外気に触れることができるように心掛けている。外出を目的にスーパーや薬局に買い物に出掛けたり、喫茶店でお茶をしたり、回転寿司やうどん屋などの食事会やお弁当持参で季節の花見などに出かけている。家族の協力を得て遠足の旅行にも出掛け、楽しい外出ができるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて支払いや買い物をする事大切さを認識し、自己で財布を持ち支払いをされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は例が無いが、電話の希望時にはご家族様承諾の元、実際に電話を利用して会話をされる方もいる。自由にはいかないが、なるべく電話をする事を拒否せず前向きに行っている事で安心感に繋がっているのかもしれない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは誰もが落ち着いて過ごせる様に家庭的な雰囲気を大切にしている。温度や日光調整をして不快感の無い生活環境に心掛けている。特に排泄の臭いには気をつけて館内の清潔に心掛けている。季節に応じて飾り物を工夫し室内に居ても季節を感じれる飾りをしている。	居間と食堂はワンフロアで、明るく風通しが良く開放感がある。玄関や廊下等の共用空間は、整理整頓されおしゃやかな陶器の置物や絵画などを飾り、大人の生活空間を醸し出している。建物全体の色調や色彩、照明などにも工夫がされ不快な刺激がないように配慮されている。キッチンには職員が、調理を行いながら入居者を見守ることができる配置となっている。居間には和室やソファのコーナーがあり、入居者は思い思いの場所で書き物やテレビを見たり新聞を読んだりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、食堂、共有空間をご自由に使って頂き、入居者様がいる居場所を制限する事無く接していると思う。それぞれが、居場所を見つけ入居者様同士気兼ねなく過ごされていると思う。時々気の合わない時や口論がある。その際はお互いの居場所を工夫するなどスタッフが仲介している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅から家具や荷物を持ってきて頂き馴染みの空間継続出来る様にしている。個々の生活に必要な物を置き、個々の身体状況にも合わせてご家族様と相談し居室の環境を作っている。	入居者それぞれの生活スタイルを取り入れ入居者の意向を尊重した環境づくりをしている。居室には、筆筒やテレビ、椅子、加湿器など自宅で使用していた物を持ち込んで安心できる生活の場としている。また、本人や家族が希望する小物や写真などを飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。居室の鍵を、自分で管理している入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方が出来る事や分かる事をスタッフは理解し、出来ない部分のサポートを行ない、残された機能はなるべく活用して頂く様に心掛けている。安全面に考慮し転倒等の事故への注意も払って接している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000357		
法人名	社会福祉法人知立福祉会		
事業所名	グループホーム ほほえみの里若林 (藤)		
所在地	豊田市若林東町上外根1番1		
自己評価作成日	令和1年10月30日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kani=true&UgyosyoCd=2393000357-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和1年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にし、家で過ごしている様な生活が送れる様に、スタッフはゆったりとその方のペースを大切にしながらケアに努めている。地域交流も徐々に増えてきており、地域との交流(認知症カフェ、地域のお祭りの参加など)に力を入れ入居者様が地域の中の一員と感じられる様な活動に力を入れている。スタッフも明るく元気にケアに望んでいる為、入居者様も明るい気持ちで生活が出来ているのではないかと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所にはデイサービスセンターが併設され、開設4年を経過し地域に馴染み買い物や散歩を通して地域との関わりも広がりが出てきている。「心と心が通い合い、ともに笑顔で地域の中に暮らす」の理念と、年度ごとにグループホームの目標やユニット目標を職員で考え、それらを振り返りながら、日々の生活の中で、入居者が自分の有する能力に応じて自分らしく過ごせるように、一人ひとりに添ったケアをするように努めている。また、「ほほえみの里若林のスタッフルール」を行動規範として、自分の行動を振り返り見直ししながらケアに努めている。地域との交流も広まる中、八幡宮の大人神輿や子供神輿が立ち寄り、担ぎ手と会話をしたり、写真を撮ったりしてお祭りの威勢や懐かしみなどを感じながら賑わいを楽しんでいる。それぞれのユニットやデイサービスセンターへの自由な行き来の中で、イベントやカラオケ、談笑などをして楽しく交流をしている。手作りの食事やおやつなど職員と一緒に調理したり、季節の花見や外出に出かけたりして楽しみ作りを増やしつつある。調度品や絵画などが程よく配置された落ち着いた大人の生活環境の中で、自分らしくいられる場所に集い、安らぎあるのびのびとした生活を楽しんだり、柔らかな日差しが注ぐ和室で寝そべったり、ソファに腰かけ新聞を読んだり、職員と一緒に会話をしたりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念やユニット目標を掲げ常にスタッフの目に入る場所へ掲示し、理念目標を意識して実践する事が出来るが、基本理念、目標を忘れてしまってるスタッフも見られる。定期的に確認できると良いと思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェ、地域のお祭りや、ボランティアさんの受け入れなど地域の方々と交流する機会が少しずつ増えてきていると思う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自施設の特徴(認知症ケア専門施設)を活かし認知症カフェの開催や、認知症サポーター養成講座を行なうなど地域への貢献を始めていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者を中心に、運営推進会議を行っており、施設の課題や現状を参加者様に理解して頂いていると思う。しかし、介護の現場スタッフは参加していない。またご家族様の参加も難しい様です。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は管理者、ケアマネージャーが行っている。市町村主催の研修や勉強会には沢山スタッフは参加させて頂いている。日頃からの連絡等は、行なっておらず相談事や申請や提出などで管理者がやり取りを行なっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会や見直しを定期的に行い意識してケアに取り組んでいると思う。施設全体で身体拘束ゼロへの認識を持って心がけ実践していると思う。施錠に関しては安全面を考慮すると必要と思う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の勉強会、研修へ参加し見過ごす事が無い様にスタッフ間で注意し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者よりの説明や学ぶ機会はなく、制度についてあまりよく分からない。現状、分からないがケアに困るような事は無い。いずれ必要となった時に備え知っておきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時は管理者やケアマネージャーが中心に説明をしている。必要に応じて同意書などもある。その都度、不安に思うことや分からない事が残らない様に時間をかけて丁寧な説明に心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様アップグレードを実施して、ご家族様の意見や希望を全職員で確認し、施設のサービスの質の向上に役立たせて頂いている。苦情等が生じた場合は、改善策を立案し、法人本部への報告や助言、公表を行い運営に反映させる。ご家族様よりの苦情が上がらず、皆様遠慮をしているのかもしれないので、言いやすい雰囲気を意識していきたい		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、年に1回以上の面談を行い、スタッフの意見や思いを聞き、法人本部の上司へ報告等を行い運営に反映出来る様に努めている。経営部分の理解を現場スタッフへ説明し納得理解をもらう工夫も必要と思う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を各スタッフで行い、面談をしている。努力しているスタッフや成果の上ったスタッフが評価をされ給与等に反映できる仕組みを作りたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに合った研修内容、施設内勉強会を行なってスキルアップ、知識などの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、研修に参加した時くらいでしか行っていない。他の施設の事も少し知りたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人様、ご家族様には見学と説明をしてから申し込みをして頂き、現状の困りごとや課題を伺っている情報を得ている。実際に入居に至る場合にはさらに細かな情報と要望等を確認してスムーズに入居でき安心できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の様子や、困っている事、要望等をお聞きしている。入居後も小まめに日常の様子を報告し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の意向を把握し、ニーズに合わせた支援を行える様にしています。自施設でのサービスにこだわらない様にしていきたいと思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をさせて頂いているという謙虚な意識を持ち、出来る事を続けて行ける様にサポートしています。介護をされていると思わせない様な接し方に気をつけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会された際には、ご本人様の様子を積極的に伝えている。その中でご家族様のサポートが必要な際はご協力の依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力で自宅に帰ったり、お墓参りや友人と会うなどをされる方もみえる。馴染みの方と今でも連絡をとり交流をされている方もいる。ご家族様との交流を大切にしているので、とてもありがたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間、レクリエーション等を一緒に行い、共に関わりを持てる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しないといけない場合でも、次の施設や医療機関と連携し情報の共有や助言等を行う。また、ご家族様の不安や心配がない様にフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いを聞いたり、表情や行動から感じ取っている。困難な場合はご家族様からの情報を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人様、ご家族様から生活歴や暮らし方などをお伺いしている。これまでの生活を把握して今後の生活に活かしている。なかなかこれまでの生活を継続するには難しいと感じる時もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りノートを活用してその方の様子や現状の把握に努めている。基本的な1日の過ごし方や心身状況、有する能力はスタッフ間で共通意識を持って把握できていると思う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングを中心に、ケアプランの達成度、見直し、改善を行っている。ケース検討やユニット会議でそれぞれスタッフの意見を聞きだし最適なプランになる様に努めている。意見を言うスタッフが決まっているので、もっと色々なスタッフのアイデアが聞き出せると良いと思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日生活記録を記入し、日々の様子や変化に気付く様になっている。またその中で必要に応じて口頭での情報共有や意見交換も行なえていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれるニーズに合わせて既存のサービスにこだわってしまっていると感じる。もっと柔軟に様々なサービスや支援を活用していけたら良いと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括や民生委員、ボランティアの方々と協力して認知症カフェを行っており、GHの入居者様も参加させて頂くときがあり交流を図っている。また、買い物など近所のスーパーなどへ出向いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望で病院や医師を選択している。往診医を活用する事ででの利点を説明し理解納得をした上で主治医の変更をして頂いている。また、往診医以外の受診時には、情報や現状の提供を行い連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に変化があったり、体調を崩した場合には速やかに看護師に報告し対応をもらう。また、場合によっては主治医に相談等を行い適切な医療看護を受けれると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、看護師と入院医療機関との情報共有と連携を図っている。入院中も現状の把握に努め病院に出向く等の対応をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で重度化の対応の説明を行い、どの状態になったらGHでの生活が困難になるのか、転居退居の条件等も踏まえて説明を行っている。また、GHでの可能な対応と不可能な対応をしっかりと伝えてご家族様の意見や希望を可能な限り尊重した対応を取る様に努めている。実際は、医療が常時必要な場合は受け入れが困難なケースが多いと感じる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応等について学ぶ機会はあるが、実践が無い為不安に感じている。マニュアルを整備しているが、実際に急変に遭遇した際には落ち着いて判断行動が出来る様にしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や、消防や震災時の対応について学んでいる。災害マニュアルを作成してスタッフの役割等も明記されているが実際の火災や震災時に落ち着いて行動が出来る様に常に頭の中に入れておく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの言葉の内容や、口調やトーンなどに意識を持って行っている。時には荒口調になったりプライバシーをしっかりと守れていない時がある為、気付いたらスタッフ間で指摘しあえる環境が良いと思う。慣れから訪室時や、申し送りなどで無意識に尊厳を守れていなかったと反省する時もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いの訴えがあった際は、傾聴をして可能な限り対応する様に心掛けている。また、自己決定を出来る声掛けや誘導を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	場面に応じて質問形式の声掛けや希望を問う様になっている。業務を優先するのではなく、入居者様のペースや希望を少しでも多く聞き入れられるようにしていきたいが、実際にそれが困難な時も正直あるのが現状と思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を結ったり、髭をそったりとその方の状況に応じて整容を行なっていきたい。意識しないと整容が乱れてしまっている時もあるので常に意識を持って接する様に気をつけたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	理想は一緒に食事を作りたいが、スタッフによっては食事づくりに余裕が無く作る事が精一杯なスタッフもいる。少しでも入居者様と一緒に食事作りを行える様に意識をして、食事の楽しみを増やしていけたら良いと思う。食器洗いや盛り付けは一緒に出来ていると思う。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方々の食事の嗜好や摂取量に合わせて盛り付けや加工を行い無理の無い程度に摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをさせて頂いている。その方の状況に応じた内容で口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、食事飲水量、習慣から声掛けや誘導を行っている。パットを利用している方もトイレでの排泄を主として排泄の自立を目指しているが、なかなかタイミングを合わせることが難しいと感じている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促して、起床後に牛乳を飲んで頂いたり、腹圧運動や適度な活動、マッサージ等も行っている。それでも難しい方は内服薬での調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や入浴時間に配慮してその方の希望に沿った時間帯に入浴して頂いている。同姓介助希望の方には、同性介助を行いブラーバシーや自尊心の配慮に気をつけている。入浴を楽しめる様に入浴剤を使っている。時々、急に入りたいとおっしゃる方が入れなったりする日もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、生活の習慣を考えて声掛けして休息やお昼寝の時間などを作っている。夜間に良く眠れる様に日中は活動する意識を持って接している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加等にはスタッフ間で共有して副作用や変化に気付く様にスタッフ間で共通意識を持っている。薬の全てを覚える事は大変困難だと思う。飲み忘れなどが無いようなチェック体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や趣味や楽しみから、気分転換や楽しみを持って生活が送れる様に内容を考えて提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物を中心に外出する機会を意識して設けている。しかし、その日その時で対応が出来ない時もある。地域のお祭りや行事等へは積極的に計画して出向いている。また、ご家族様の協力も得て普段行くことが出来ない様な場所へ行かれる時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご自身で持たれ、支払いや買い物をする方もいる。自己管理が難しい方は事務所管理で対応をさせて頂いている。品を選ぶなどは本人様に行なって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を活用してご家族様などとお話をする事ができます。自己にて携帯をお持ちの方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙を皆さんと作成して飾ったり、季節にあった飾り物を掲示するなどしている。その中で生活空間としての落ち着きや配色等には気をつけている。温度や湿度、明るさなど不快に感じる事がない様にその時々で調整をしている。個々の体感差には、衣服との調整で行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋を利用したり、他のユニットに自由に行き来しそれぞれが自由に使うことが出来る環境を意識している。デイサービスの方との交流もあり思い思いに過ごされていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れた家具、慣れ親しんだ道具などを自由に入れ込んで頂き、これまでと変わりの少ない環境で生活が送れる様にしている。ご家族様にも説明して理解をして頂き、必要な物を持って頂いたりご協力を得ている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお部屋の名前などを分かり易く表記して自立した生活を少しでも送って頂ける様に工夫をしている。		